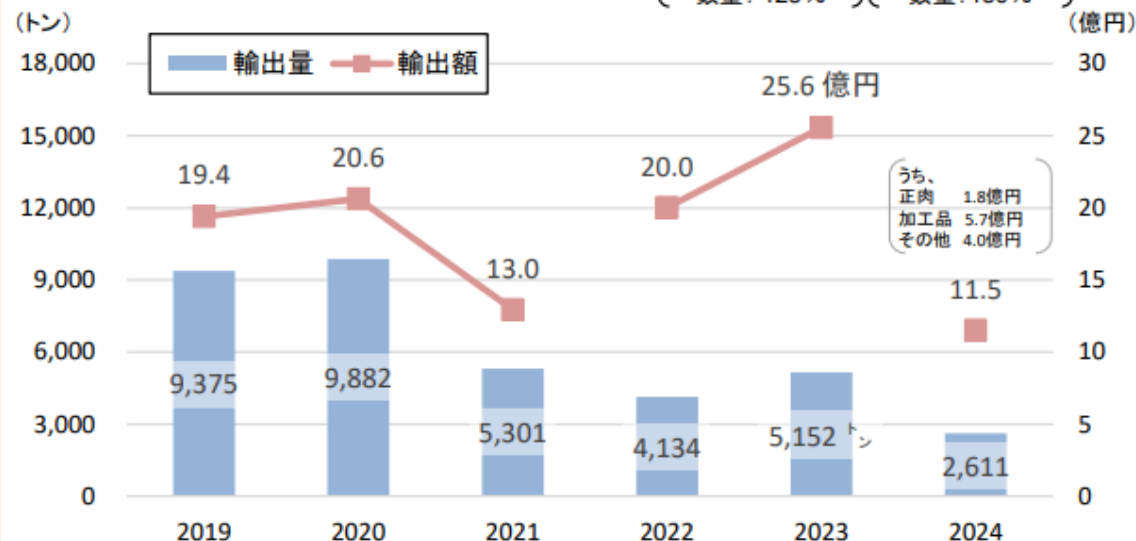


# 鶏肉の輸出について

## 最近の輸出実績※

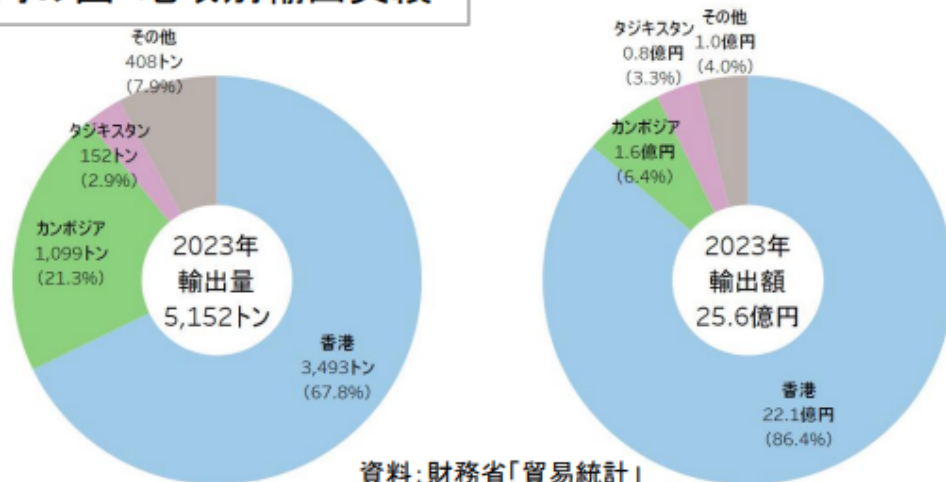


前年比  
(2023年)  
金額: 128%  
数量: 125%

前年同期比  
(2024年1~6月)  
金額: 112%  
数量: 130%

うち、  
正肉 1.8億円  
加工品 5.7億円  
その他 4.0億円

## 鶏肉の国・地域別輸出実績



2030年輸出目標: 100億円  
(2025年輸出目標: 45億円)

- 輸出可能国・地域  
香港、ベトナム、カンボジア、シンガポール、EU、マカオ 等
- 輸出解禁協議中の国・地域  
中国 等

＜輸出先国・地域別の施設認定状況＞ (2024年7月末現在)

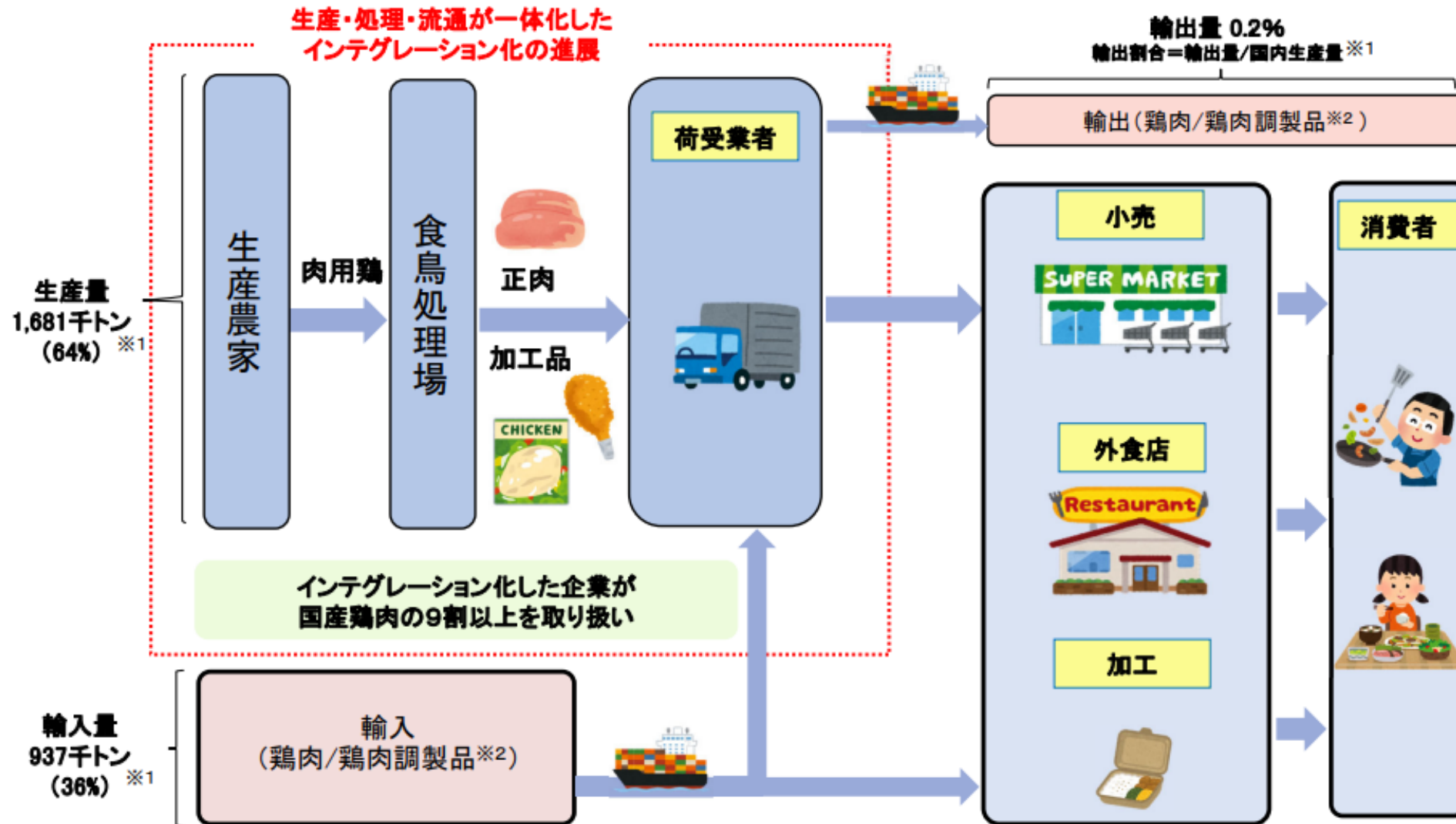
|     | 香港 | ベトナム | シンガポール | マカオ |
|-----|----|------|--------|-----|
| 施設数 | 78 | 70   | 1      | 23  |

## 輸出拡大実行戦略に定める主な取組

- 生産者・食鳥処理施設・輸出事業者が生産から輸出まで一貫して輸出促進を図る「コンソーシアム」を産地で構築
- 低コスト化の実現による価格競争力の強化や、輸出先国の求める高度な衛生水準に対応する輸出認定施設を増加
- 輸出先国の規制緩和・輸出解禁に向けた協議の推進



# 鶏肉の流通



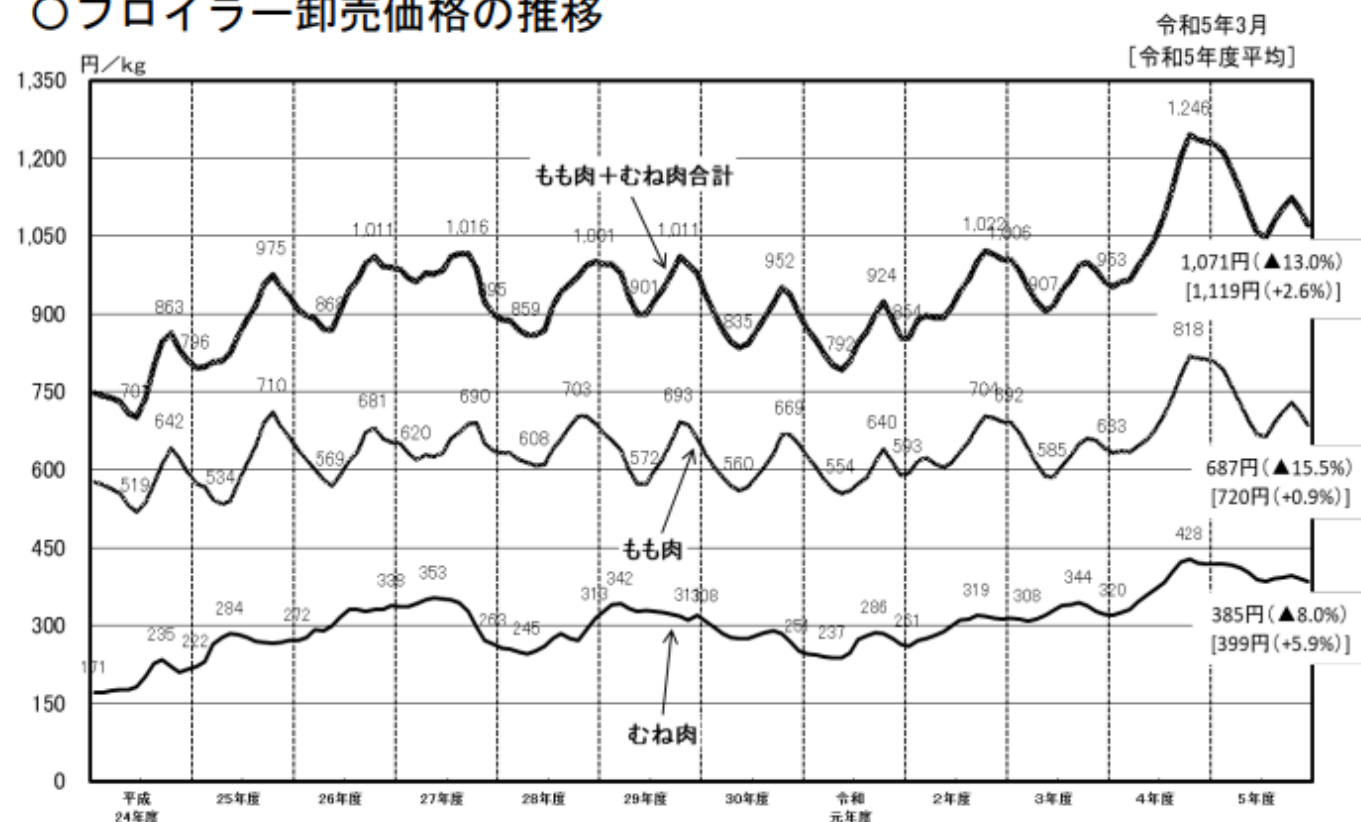
※1: R4年度食料需給表(採卵鶏を含む)

※2: 唐揚げ、焼き鳥、フライドチキン、チキンナゲット、サラダチキン等

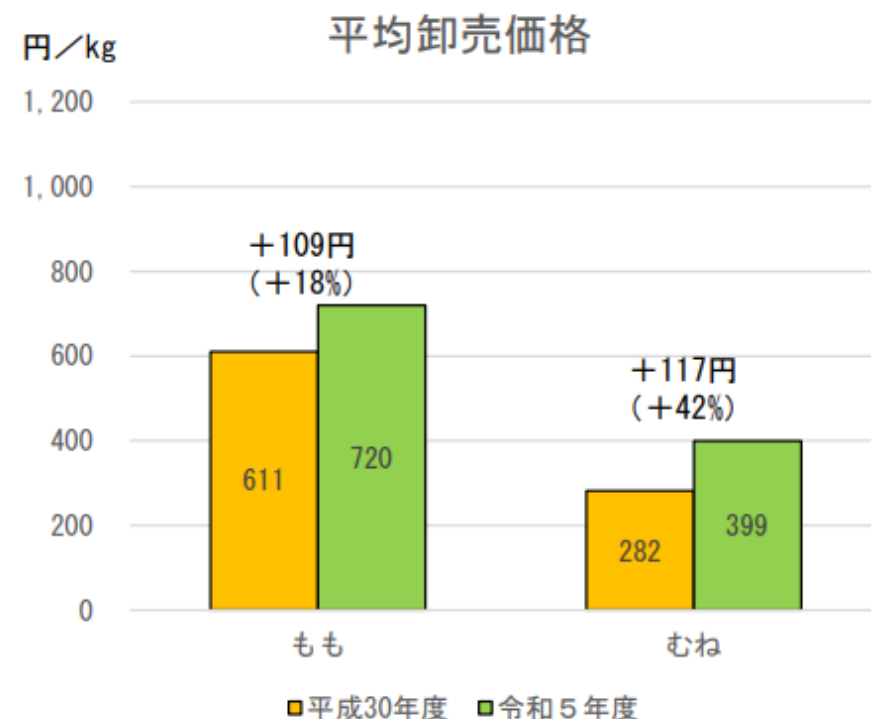
# 鶏肉価格の推移

- ・ もも肉価格は、夏場の不需要期に向けて価格が低下し、年末の需要期に向けて価格が上昇する傾向がある。
- ・ 近年の生産拡大等を背景に平成30年度以降前年を下回る傾向で推移していたが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響による「巣ごもり需要」の高まりから、需要が好調となり、価格は上昇した。
- ・ 令和5年度も堅調な需要から、例年を上回る水準で推移。
- ・ 近年、低価格志向・健康志向の高まりから、もも肉に比べむね肉の価格上昇率が高い。

## ○ブロイラー卸売価格の推移



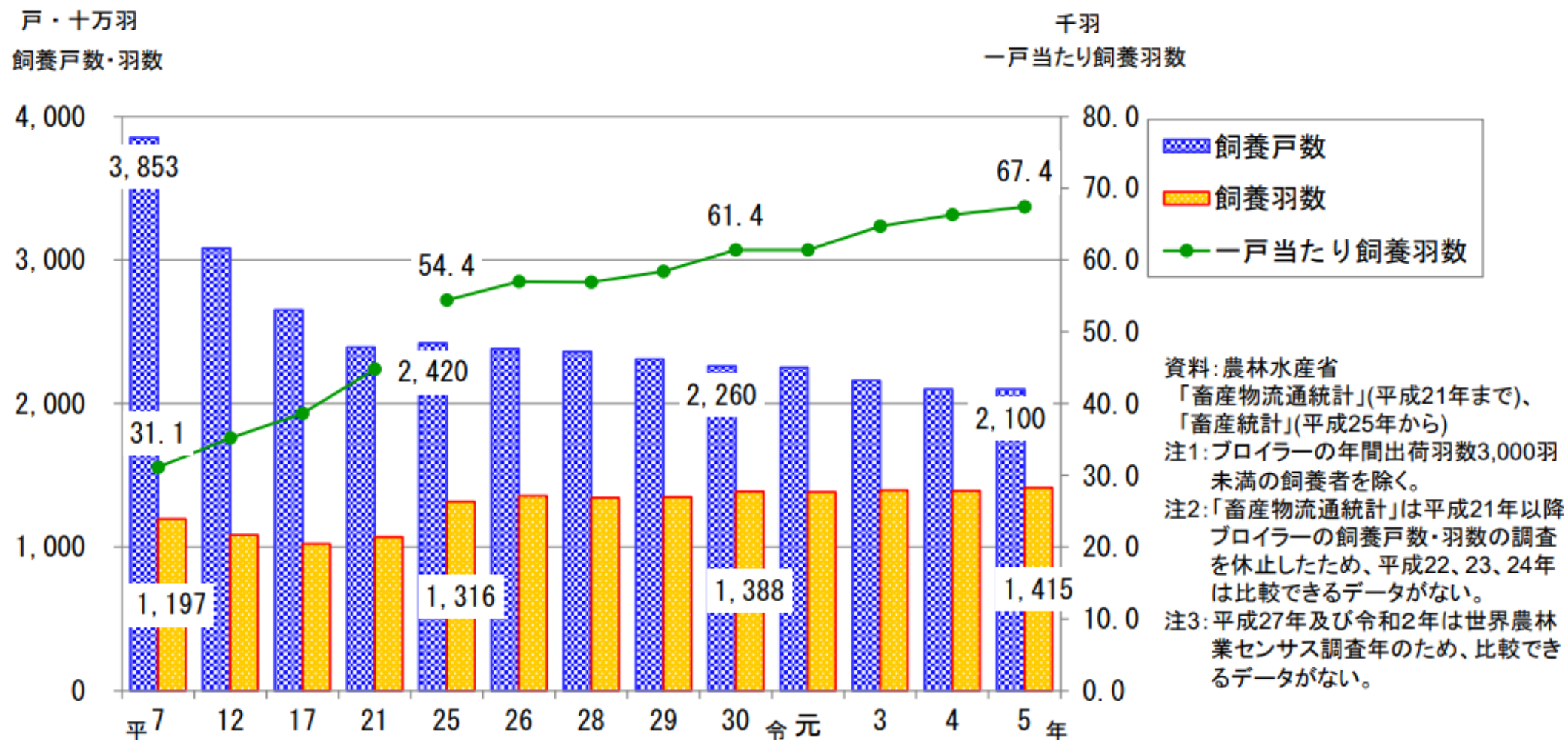
## ○ブロイラー平均卸売価格の比較



## ブロイラーの飼養状況の推移

- ・ 飼養戸数は、近年、小規模飼養者層を中心に年率1～2%前後の割合で減少。
- ・ 飼養羽数は、近年、概ね横ばいで推移。
- ・ 一戸当たり飼養羽数は、増加傾向で推移。

### ○ 肉用鶏の飼養戸数・飼養羽数の推移





## 鶏(ブロイラー)の飼養戸数・羽数の推移

- ・ 飼養戸数は、減少傾向で推移しているものの、大規模層は増加傾向で推移。
- ・ 出荷羽数は、増加傾向で推移。
- ・ 一戸当たり飼養羽数及び出荷羽数は増加傾向で推移し、大規模層（年間出荷羽数50万羽以上）のシェアは拡大傾向で推移。

| 区 分 / 年             | 26      | 28      | 29      | 30      | 31      | 令和 3    | 4       | 5       | 6       |
|---------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 飼養戸数（戸）             | 2,380   | 2,360   | 2,310   | 2,260   | 2,250   | 2,160   | 2,100   | 2,100   | 2,050   |
| （対前年増減率）（％）         | （▲1.7）  | （▲0.8）  | （▲2.1）  | （▲2.2）  | （▲0.4）  | （▲4.0）  | （▲2.8）  | （0.0）   | （▲2.4）  |
| 飼養羽数（千羽）            | 135,747 | 134,395 | 134,923 | 138,776 | 138,228 | 139,658 | 139,230 | 141,463 | 144,859 |
| （対前年増減率）（％）         | （3.1）   | （▲1.0）  | （0.4）   | （2.9）   | （▲0.4）  | （1.0）   | （▲0.3）  | （1.6）   | （2.4）   |
| 出荷戸数（戸）             | 2,410   | 2,360   | 2,320   | 2,270   | 2,260   | 2,190   | 2,150   | 2,120   | 2,100   |
| うち50万羽以上層（戸）        | 230     | 266     | 268     | 272     | 282     | 298     | 313     | 277     | 312     |
| 戸数シェア（％）            | （9.5）   | （11.3）  | （11.6）  | （12.0）  | （12.5）  | （13.7）  | （14.6）  | （13.1）  | （14.9）  |
| 出荷羽数（千羽）            | 652,441 | 667,438 | 677,713 | 689,280 | 695,335 | 713,834 | 719,186 | 720,878 | 731,847 |
| うち50万羽以上層（千羽）       | 270,971 | 294,138 | 296,577 | 312,229 | 321,553 | 343,025 | 355,116 | 350,874 | 387,559 |
| 羽数シェア（％）            | （41.5）  | （44.1）  | （43.8）  | （45.3）  | （46.2）  | （48.1）  | （49.4）  | （48.7）  | （53.0）  |
| 一戸当たり平均<br>飼養羽数（千羽） | 57.0    | 56.9    | 58.4    | 61.4    | 61.4    | 64.7    | 66.3    | 67.4    | 70.7    |
| 一戸当たり平均<br>出荷羽数（千羽） | 270.7   | 282.8   | 292.1   | 303.6   | 307.7   | 326.0   | 334.5   | 340.0   | 348.5   |

資料：農林水産省「畜産物流通統計」、「畜産統計」（各年2月1日現在）注1：50万羽以上層戸数シェア及び羽数シェアは、学校、試験場等の非営利的な飼養者を除いた数値を用いて算出している。2：平成25年以降の数値は、年間出荷羽数3,000羽未満の飼養者を除く数値である。3：2月1日現在で飼養のない場合であっても、前1年間（前年の2月2日から当年の2月1日まで）に3,000羽以上の出荷があれば、出荷戸数、出荷羽数、一戸当たり出荷羽数に含めている。4：平成27年及び令和2年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。また、平成28年及び令和3年の（ ）内の数値は、それぞれ平成26年及び平成31年との比較である。

## 鶏(採卵鶏)の飼養戸数・羽数の推移

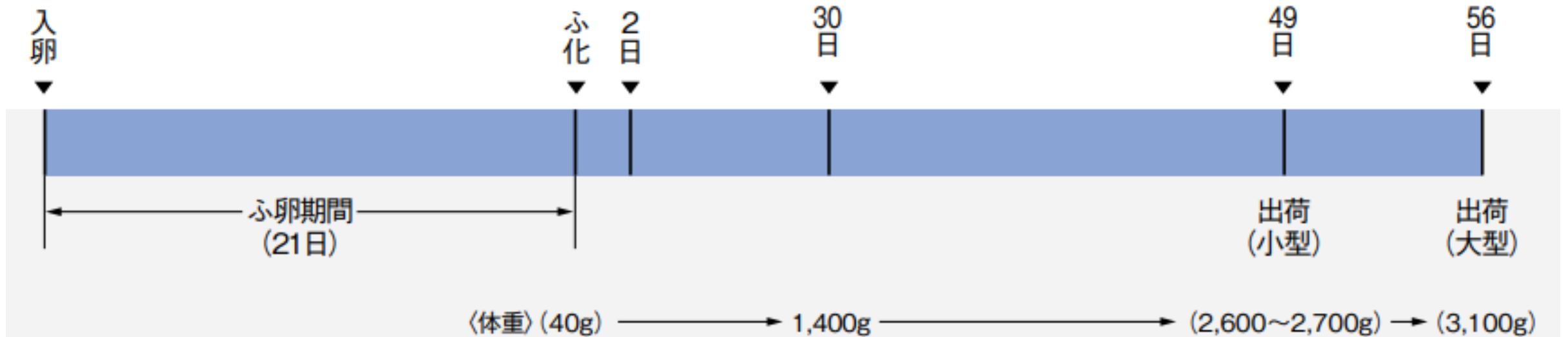
- ・ 飼養戸数は、減少傾向で推移。主に小規模層で減少。
- ・ 成鶏めす飼養羽数は、令和3年以降減少傾向で推移していたが、令和6年はわずかに増加。
- ・ 一戸当たり飼養羽数は、増加傾向で推移しており、大規模化が進展。

| 区 分 / 年          | 平成26    | 28      | 29      | 30      | 31      | 令和3     | 4       | 5       | 6       |
|------------------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 飼養戸数(戸)          | 2,560   | 2,440   | 2,350   | 2,200   | 2,120   | 1,880   | 1,810   | 1,690   | 1,640   |
| (対前年増減率) (%)     | (▲3.4)  | (▲4.7)  | (▲3.7)  | (▲6.4)  | (▲3.6)  | (▲11.3) | (▲3.7)  | (▲6.6)  | (▲3.0)  |
| うち成鶏めす10万羽以上層(戸) | 324     | 347     | 340     | 332     | 329     | 334     | 334     | 306     | 313     |
| 戸数シェア (%)        | (14.0)  | (15.7)  | (16.1)  | (16.7)  | (17.1)  | (19.6)  | (20.5)  | (20.1)  | (21.3)  |
| 成鶏めす飼養羽数(千羽)     | 133,506 | 134,569 | 136,101 | 139,036 | 141,792 | 140,697 | 137,291 | 128,579 | 129,729 |
| (対前年増減率) (%)     | (0.3)   | (0.8)   | (1.1)   | (2.2)   | (2.0)   | (▲0.8)  | (▲2.4)  | (▲6.3)  | (0.9)   |
| うち10万羽以上層(千羽)    | 93,476  | 99,395  | 101,048 | 104,515 | 107,734 | 112,535 | 109,002 | 102,908 | 105,162 |
| 羽数シェア (%)        | (70.0)  | (73.9)  | (74.3)  | (75.2)  | (76.0)  | (80.0)  | (79.4)  | (80.1)  | (81.1)  |
| 一戸当たり平均          |         |         |         |         |         |         |         |         |         |
| 成鶏めす飼養羽数(千羽)     | 52.2    | 55.2    | 57.9    | 63.2    | 66.9    | 74.8    | 75.9    | 76.1    | 79.1    |

資料:農林水産省「畜産統計」(各年2月1日現在) 注1:種鶏のみの飼養者を除く。2:10万羽以上層戸数シェア及び羽数シェアは、学校、試験場等の非営利的な飼養者を除いた数値を用いて算出している。3:数値は成鶏めす羽数1,000羽未満の飼養者を除く数値。4:平成27年及び令和2年は世界農林業センサスの調査年であるため比較できるデータがない。また、平成28年及び令和3年の( )内の数値は、それぞれ平成26年及び平成31年との比較である。

# 鶏肉が生産されるまで

鶏肉生産の主流は、ブロイラー飼育です。ブロイラー飼育とは、肉用鶏のひなを導入し、若鶏（50～60日齢）で出荷する飼育形態であり、一斉にひなを導入し、一斉に出荷するオールイン・オールアウト方式が一般的です。



卵を21日間孵卵機の中で暖めて孵化させます。孵化後2日間は初生雛と呼び、この間に雌雄鑑別を行います。雄も雌も肉用に飼育しますが、雌雄別々に飼育するため雌雄鑑別が必要になります。30日齢までを育雛前期、以後出荷される

56日齢までを育雛後期と呼びます。ブロイラーと呼ばれる肉用鶏は、56日（8週）齢や49日（7週）齢で出荷されます。一般に地鶏と呼ばれる鶏は、日本在来の鶏を改良したもので、出荷月齢を100日程度まで延ばした食用鶏です。



# 国産チキンの育成について

安心・安全な国産チキンがどのようにして生まれ、育てられているかについてご紹介します。

## 鶏種について



現在、日本国内で流通している国産チキンは9割以上は「ブロイラー」と呼ばれる食肉用鶏となります。小売店では「若鶏」として販売されています。ブロイラーは白色コーニッシュの雄と白色プリマスロックの雌の交雑種が主流となっています。



# 「いかに少ない飼料で、短期間に、多くの肉を得るか」

この目標の下に、長い年月をかけて何世代も交配させて品種改良の研究を積み重ねた結果、現在の品種に至った経緯から、生産性は非常に高いものになっています。

